

**NZK**

日本全薬工業株式会社

郡山市安積町笛川字平の上1-1

(有)美津和薬品商会

本社 〒708 津山市井ノ口25 卸売センター内  
TEL (08682) 2-7014

## 飼料添加物

高単位ビタミンAD<sub>3</sub>E剤*Dawes* ドウズADE

## 成 分

本品1g中

ビタミンA油	50,000 I.U. (ビタミンAとして)
コレカルシフェロール	5,000 I.U. (ビタミンD <sub>3</sub> として)
酢酸トコフェロール	20 I.U. (ビタミンEとして)
プロピオン酸ナトリウム	3mg

## 特 長

- 1) ビタミンA・D・Eの粒子はそれぞれ特殊コーティングされているために、濃厚飼料に混合しても安定性がよく、しかも保存性に優れています。
- 2) 含有ビタミンは微粒子で、体内(腸管)吸収は速やかにおこなわれます。又、製品は均一になるよう製造されています。
- 3) 基剤は小麦粉使用のため嗜好性が良く、濃厚飼料に容易に混合できます。

## 〔ゼンヤクの固型塩グループ〕

&lt;一般用&gt;

&lt;グラステタニ様疾患予防用&gt;

グリン鈴塩

鈴塩エム

&lt;肥育牛の尿結石症予防用&gt;

固型カウストン



ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

**ハイミルク**

九月のホクラクの共進会で、経産牛二頭とも、体高一四一cmと一四三cmの小柄な牛が大柄な牛を押えて優勝した。素晴らしい乳房と優れた資質を見せてくれた。大相撲で軽量の千代の富士が優勝したような快感を味ったのは私一人ではなく、たろう。今後の日本型の能率的な経済的な乳牛の姿を見せてくれたような気がした。

先程、日本は日本ホルスタイン像を公表した。わが国の酪農環境に適した標準体型として、ホルスタイン牛は経済性、長命性、連産性に富むものでなければならぬ。これらの要求を満すホルスタインの標準体型としては、鋭角的で飼料の利用性にすぐれ、六才、四十五産、一〇ヶ月、乳量八、〇〇〇kg以上で、分娩五ヶ月の状態で体高は一四一cm(一三五~一四八cm)、体重は六五〇kg(六〇〇~七〇〇kg)を標準としている。

前橋の全共みると、経産の名譽賞牛は体高一四六cmであったが、経産牛平均は一四五・五cmで、やはり成牛の上位牛は体高一五〇cm前後のが多かったようだ。審査報告にも、わが国では粗飼料に恵まれず、また高温多湿な地域の多いこととも考えると、体型の大型化が著しく進行すると、酪農経営上禍根を残すことが恐られるので、経営や地域の特性に見合った大きさの牛づくりを進めるよう警笛を発している。

共進会の意義は、各牛を比較して優れ

## 卷頭言

たものを改良目標として展示し、お互の改良意欲を高め、牛の見方やいろいろの技術を勉強することにあるとおもう。今回の全共の反省として、体高の大きいものについて上限値をオーバーするものについては減点を考慮すべきであろう。出品資格についても自県内産にすべきであらうとの声もあるようだ。共進会ではどうしても大きな牛が見栄えがするので、勝つために高価な大柄な牛を導入する例を見かけるが、たとえその牛が優勝しても、その農家の牛群や経営条件に合わない。

高等登録牛の審査成績と能力の関係について、日ホ協の五四年度の一万九九九頭のとりまとめをみると、初産までは二産前後で受検しているのが六四%と若い牛が多いが、平均審査得点は七八点、平均乳脂量指数は一八八となつていて。審査得点で七八点から八〇点未満のものが六一%と大半を占めている。

わが国の気候や飼料基盤を考えれば外國での成績をそのまま鵜呑みにはできないかも知れないが、最近農業雑誌に「乳牛の体型と経済能力との関係について」の質問に「平骨で資質の良いものは間違いないようだ」と答えていた。本牛は基礎登録牛で、初産で二代本登録を申し込

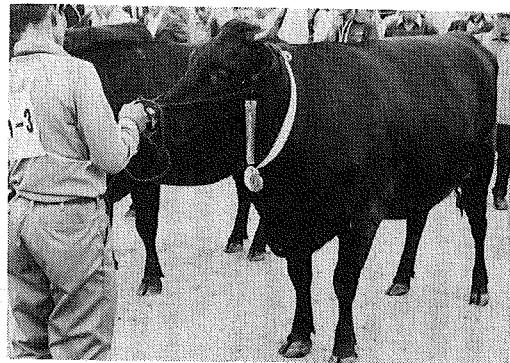
いと儲けにつながらないし、酪農家にとって決して良い牛とは言えないだろう。要は自分の経営に合った牛群をつくり出しその中から出品牛を選び出すことであり、これが儲かる酪農経営につながることになる。

以前全酪新報に、初産で一日乳量四八kg搾った長野県の酪農家の記事がでていたが、この畜主は牛の見分け方にについて見合った大きさの牛づくりを進めるよう警笛を発している。

これはアメリカのDHI加入牛の公式乳量検定と、ホル協の体格審査をうけ

乳脂量指数では一六〇以上一〇〇未満の頭数が四八・五%となっている。審査得点が高くなるにつれて乳量は増えているが、七九点台で平均乳量は八、〇七〇kgとなっている。

わが国の気候や飼料基盤を考えれば外國での成績をそのまま鵜呑みにはできないかも知れないが、最近農業雑誌に「乳牛の体型と経済能力との関係について」の質問に「平骨で資質の良いものは間違いないようだ」と答えていた。本牛は基



うなものは余りいなかつたようだ。今後の課題は、如何にしてこうした、外貌の改良にふさわしい肉質を確実に伴なわせるかということであろうが、そのためにも優良牛生産四方式の普及徹定の重要性を痛感した次第である。

二、やや意外であったのは、蹄作りの誉れ高い当県の出品牛にしては、肢蹄に不満のある牛が目についたことである。肢蹄は牛の経済能力発現や長期供用の基礎として重要な部位であるので、伝統的技術に、さらに磨きをかけられるよう切望する。また、牛の見せ方（調教）の点でも、かつてのごとく「さすがに」と思われるものが減つたように感じられたの

県共特集

# 肉用種種牛の審査所感

(社) 全国和牛登録協会

久々に岡山県共を見る機会を与えて貰つたので、卒直な所感を記してご参考に供したい。

さすがに伝統ある產牛地にふさわしい優良牛が揃つて出品されていた。ことにその育成技術の素晴らしさには改めて心させられるとともに、全県下の和牛レベルが殆んどその差を認め難いまで揃つていたことが印象的であった。そこで、あれだけの技術があり、これだけ伸びないのか、これでは「ようやく和牛の出番が来た」というのにせっかくのはが泣き、最大の財産が遊んでいるのにならうか、その原因はどのあたりにあるのか、また、どうすればこの腕が十分に生かされるのだろうかといった疑問反省を強めた次第である。

## 出品牛の血統について

全出品牛のうち三五%が高庭の産子、二四%が奥繁の産子で、この二頭の産子が全体の六〇%近くを占めていた。

母親の血統が不明なので、これが、血統関係を十分に考慮して優良牛の生産方式に合った交配を行なった成果であるのか、あるいは、単に人気により支配されたの結果であるのか筆者は判断できなかつたが、いづれにしても、前記の六〇%という数字は等閑視できない数字だと思う。

## 二、今後の改良方針について

改良方針を考えるには、まず現在の牛が、どのような遺伝因子を受け継いでいるか、その実態を十分に把握することが大切である。そういう意味で第四回全共の出品目録には全出品牛の五代祖までの血統を明示することにしているが、地方の共進会名簿でも、今後は、こうした点についてご配慮、ご検討をお願いしたいと思う。

岡山県の和牛改良史をひもといてみると、昭和の極初期に但馬の資質ラインを導入して以来、不完全ながら、今日でいう優良牛生産方に則って、資質、体積両ラインを父方・母双方に採り入れる努力が続けられており、その成果が肉質、

本、全く予想外であったのは繁殖雌牛群である。筆者の期待が余りにも大き過ぎたのかも知れないが、岡山県というイメージからすると今回の出品は、いささか物足りなかつたのが率直な感想である。群出品にはいろいろと、むずかしい条件があつて、出品された方々の苦心はよく理解できるが、集団的改良という点から今後は、共進会の本命とさえいえる出品区であるので、一層の奮記をお願いするところに、第四回の全共には、名産牛地にふさわしい目の覚めるような出品を期待する次第である。

殖雌牛の系統再編強化に努められるとともに、肉質、肉量兼備という鉛枠を損なうことなく、さらに、肉質面でもうひとパンチきかそうとする交配方針を進められていることに敬意を表する次第である。

問題は、こうした手法なり方針が生産者各位に十分理解されているか否かといふ点だと思う。というのは、一部の地域の一部の人達によつて、こうした方針とは別に資質ラインの雌牛導入なども行なわれているという話を耳にしたからである。

和牛の改良は個人や極く限られた少人数では永続しない、次代、次々代の種牡牛のことを考えただけでもこれはどう理解

肉量某种程度の間山牛といふ銘柄を育むた事実を学ぶことができる。従つて、本県の改良和牛は、いずれもその血統中に大なり小なり資質、体積両ラインを有しているものと認められるけれども、〔一〕昔の改良指標は表現型が主体で、検定成績や血統などへの配慮が不充分であったこと、〔二〕資質ラインの導入から相当長年月を経ていることなどの理由で、資質ラインの不足しているものや、表現形質と所有する遺伝因子が必ずしもマッチしていない個体の増えていること、〔三〕それに社会的な要求も昔と若手異なつていてことなどを想定される。

この点を重視して、県及び本会支部においても、産肉能力検定成績は勿論、出

育種事業にしても、育種組合員だけが独立して走したのでは決して成功はしない。地域全体の生産者が育種の必要性を認め、育種の成果がやがて地域全体に返ってくることを理解して、「育種は皆んなのために、皆んなは育種のために」といった気持ちが育つことが育種事業を成功させるための必須前提なのである。

さらにまた、ワン・ストップ・ショッピングという流行語に見られるように、和牛界でも大市場時代（大型トラックで乗りつけて一ヵ所で揃った良牛が買えるような市場なら少々高価でも多くの購買者が集まる時代）が到来しつつあることは明白な事実であり、熱心の余りとしては、一部の人達だけの独走とか郷愁では決して地域全体の利益に結びつかないものである。

もし、前記のような合理的方針を実施した結果、さらに資質ラインの導入強化が必要だということになれば、関係者全員の十分な理解を得たうえで、組織的かつ計画的な育種事業を実施すべきものと考えるが如何なものであろうか。

以上、いささか求められた内容を逸脱してしまったが、終始積極的ご協力を頂いた出品者並びに関係者各位や、どしゃ降りにもめげず參觀に見えた多数の方々の意欲に応えたい一念に免じて、筆の過ぎた点にはご寛容を賜わりたい。

ので、その内訳について十分なご検討をお願いしたい。そしてもし、これが人系統研究会の開催などを通じて「優良牛生産四方式」の生産者への指導と普及に努められるよう希望する。現在和牛の改良は優良牛生産四方式を軸に進んでおり、日本中の購買者が四方式に則して生産された牛を求めているからである。



第37回県共 各部首席受賞家畜名簿

	名 号	生年月日 (月令)	血 系 统		産 地	出 品 人
			父	母		
肉用種牛	種雄牛候補	第39富能	54.10.30 (23月)	奥繁	みはな3	真庭
	若雌 1区	ゆあさ3	55.11.2 (11月)	糸藤	ゆあさ	津山
	" 2区	きよし2	55.4.13 (17月)	高庭	第3きよし	勝田
	" 3区	かとう31	54.10.20 (23月)	高庭	しげはな	阿哲
繁殖種牛	繁殖雌牛群 (36カ月以上)	第5ひめやま	53.3.23 (3才6月)	高庭	第10よこぎ	真庭
		とくはな	53.3.8 (3才6月)	高庭	第2てんこう	真庭
		とみ	52.1.25 (3才9月)	高庭	はつみ	真庭
乳用種牛	ホルスタイン種未経産 (12カ月~20カ月未満)	マタドア ポンド コントローラー	56.6.20 (15月)	ボンド ハイブン アクチベーター	マタドア サイクロロン コントローラー	津山
	" (20カ月以上)	バーバラ プレステージ ペネット	54.12.17 (21月)	マグロエーカース プレステージ	バーバラ ピクター ウェイン	真庭
	ホルスタイン種経産	ハビストファーム ラウンドリークリスト	52.6.23 (才3月)	ローマンデール カウント クリストン	ラウントリー トライコン ウェイン	長野
	ジャージー種 経産	アングル フィールド スクーディスクレット	55.5.10 (16月)	スターダストスター・ライツ トライアンフ	アングル フィールド ドッグウッド マル	真庭
ジャージー種未経産	アワルア ドッグ ウッド ホリー	53.12.31 (2才9月)	ザ ドッグ ウッド	アワルア コメット アンサム	真庭	真庭・新庄 渡辺
	オツラダ ザーリーンチエ アジューデント 778	55.10.21 (11月)	ザーリンチエ サクセス クラモナ 2~5	オツラダ ブラム アジューデント 168	静岡	真庭・落合 妹尾 幸
種 豚						

## 畜産登録団地推進現地検討会より

### 當農共同対策部

昭和五六年度の岡山県内における、全国畜産登録団地（農協）は養豚三・養鶏一・肉用牛（肥育）二・繁殖（素牛）五一團地（農協）となっております。

一〇月三〇日・三一日に加茂農協において、岡山県畜産登録団地推進委員会・農協中央会・経済連が主催して、畜産登録団地推進現地検討会を開催しました。

前記登録団地内より養豚一・繁殖（素牛）五の計七団地が参加し、総員二〇名で一泊二日間にわたり、畜産団地強化対策を中心終始熱心な討議と検討が行われ、素牛（繁殖）の団地である加茂農協の地域農業振興と和牛育成情況を目の当たりにして大いに感銘しました。そこで加茂農協における肉牛振興方策の一端を紹介します。

加茂農協における肉牛振興方策

繁殖牛（素牛）

飼養牛全頭の管理カードによる系統、繁殖の徹底と優良牛の生産並びに受胎率の向上をはかる。

加茂農協管内では、繁殖牛農家三六一

頭に登録されています。

水田利用再編対策による転換作目として飼料作物を栽培し、飼育規模の拡大と省力化・飼料自給率の向上により農家の安定化をはかる。

畜産農家と耕種農家の提携により堆肥・稻ワラ交換を促進する。

優良保育奨励事業による母牛資質の向上と優良仔牛の生産奨励をはかる。

肥育牛の生産確保と資金需要に対処するため預託事業を実施し経営の安定化をはかる。

肥育農家の経営大型化に対処した経営指導体制を強化し経営改善に資する。

肥育牛の肉質及び産肉能力向上のための生産技術の習得を行つ。

以上となっております。

戸で七三二頭、肥育牛農家七戸で二〇〇頭が常時飼養されており、地域農業の主要部門として、振興方策の実践に当っては、町行政・普及所と連絡提携を密にして強力にすすめられています。

#### 検討事項より

素牛（繁殖）団地共通の課題として受胎率の改善向上があげられました。加茂農協では振興方策の第一に、飼養牛全頭の管理カードを作成し、その個体別記録による方法が実施されていますが、今後の対策として参加全団地で管理カードを実施することを確認し、更に今後この管理カードの様式の改善、コンピュータ方式等の研究に努めることになりました。

肥育牛における検討では、現在の市況に対する損益算定による家畜事故化と、経営診断事業の実施により、経営改善に資する。

肥育牛の生産確保と資金需要に対処するため預託事業を実施し経営の安定化をはかる。

肥育農家の経営大型化に対処した経営指導体制を強化し経営改善に資する。

肥育牛の肉質及び産肉能力向上のための生産技術の習得を行つ。

以上となっております。

加茂農協管内では、繁殖牛農家三六一

注)カードシステムとし飼養農家ごとに収録する。

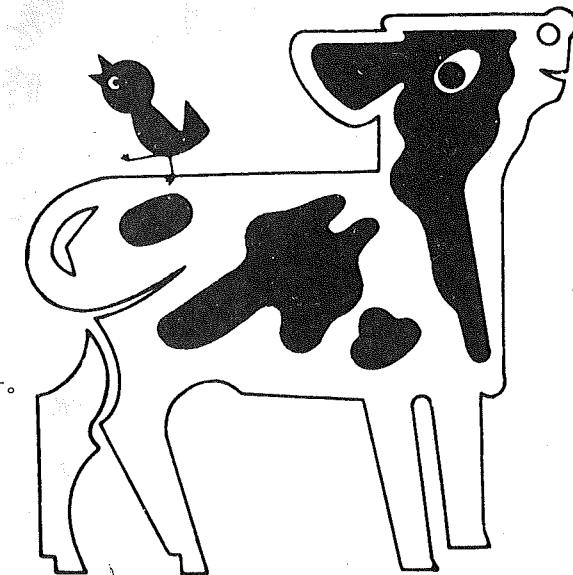
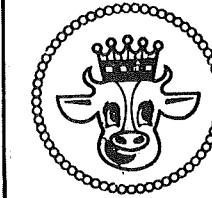
## 乳は国産 エサは全酪

### 团结は力！ 系統利用は团结の象徴

最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系  
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

#### 主要取扱品目

専管、増産ふすま。外国大麦飼料。  
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスター。  
幼牛用、搾乳用配合飼料。  
その他酪農用飼料資材全般。  
市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！  
**全国酪農業協同組合連合会**

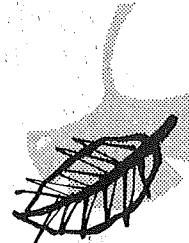
## 農業青色申告の

重要性強まる。

先般税務署は農業所得課税について從來の農業所得標準方式から作付面積(飼養頭羽数)による適用除外、すなわち所得標準によらず実態による申告納税方式の方針であることを公表された。

戦後のわが国の所得税は、申告納税制度になっており、納税者が自ら自分の所得を計算し、その所得に応じた税金を自分で計算するという制度で、青色申告を行なう場合特にいろいろの特典によって優遇されている。

勿論一定の帳簿を持ち、正確に記帳しその記帳に基づいて所得を計算することになり、記帳は一月一日から始め、その年の三月十五日までに「青色申告承認申請書」を管轄の税務署に提出することとなる。「農業所得標準摘要除外作目の基準」は別掲のとおり。



農業所得標準摘要除外作目の基準(目安)

作目名 (畜種)	作付基準 (飼養頭数)	粗収入目安	農業所得標準による収支(昭和55年分)10アール当り		
			粗収入	必要経費	摘要標準収入
野菜	100アール	4,200千円	420,776	160,301	260,475 (岡山・倉敷の周辺)
		3,500千円	357,845	142,364	215,481 (その他都市周辺)
		2,300千円	238,649	106,978	131,671 (その他地区)
果樹	100アール				
	ベリーA	1,800千円	186,575	100,032	86,543
	キャンベル桃	1,600千円	161,979	738,630	88,116
温室	1,000ヘーベ				
	アレキ加温	2,900千円	9,667	5,470	4,913 (3.3ヘーベ)
	アレキ無加温	1,300千円	4,392	893	3,499
ハウス	30アール				
	ビニールキャン	1,900千円	661,637	278,698	382,939
肉豚	500頭	17,800千円	35,760	35,760	
	子豚	500頭	10,000千円	21,330	20,965
	酪農	20頭	10,000千円	516,230	359,852
					156,378

(注) 野菜・果樹については、作付延べ面積であって作目品種は問わない。

粗収入の目安は、55年分所得標準による。

温室・ハウスについては作目、品種は問わない。

## 新刊のご案内

- 日本標準飼料成分表(1980年版)  
B5判 158頁 定価 1,000円 〒300円  
畜産関係者必携。1975年版を全面改訂。分析数値集録点数大幅増。
- 酪農生産力の展開  
A5判 204頁 安増莊一著  
定価 1,300円 〒250円
- 昭和56年 畜産経営の動向  
B6判 242頁 定価 2,300円 〒250円

ご注文は 岡山県畜産会へ

〒700 岡山市磨屋町9-18 農業会館内  
TEL 0862(22)8575

## 畜産会のページ

# 乳牛の後継牛の育成に一言(その1)

岡山県畜産会では、酪農經營の診断指導を毎年八〇件ぐらい実施しております。

この診断内容で共通的に悪いのは、「泌乳牛の飼養技術」と「育成技術」であります。今回特に後継牛の育て方について一、二ご注意を申し上げておきます。

図一は、経営診断をした農家の後継牛の飼料給与例を図で示したもので多くの農家で実施されている事例であります。この事例は、どう云うわけか美作地方に多く、県南に少い傾向にあります。この図式は、早期離乳と慣行法を併用している点が特徴です。云いかえると、早期離乳を慣行法で補足しているとも云えます。もとより具体的に云いますと、体型もよくして離乳能力も高めたいという欲はつた方法であります。

そこで次の四つの条件を考えたい 것입니다。  
1. 乳牛の改良方向  
従来乳牛の改良方向は、個体の改良を中心にしてきました。体型がよければ泌乳能力も高いと信じられてきました。昨今では、乳用牛群改良推進事業・

事が解って参りました。

### 4. 後継牛の育成の狙いは何か

優良乳用種雄牛選抜事業等が全国的な規模で実施され、産乳能力の改良が早いテンポで進められています。このようないい情勢の変化から、乳牛改良は直接産乳能力の向上を主体に考えるようになり、体型は従に考えるようになってきたのであります。また個々の乳牛より牛群全体のレベルアップを重視するようになります。

### 2. 早期離乳の技術の発達と普及

最近、子牛の発育・栄養に関する研究と人工業養の開発が進み、人工哺乳の期間が四二日から三〇日に短縮されようとしております。このように短い哺乳期間を目標としているのは、省力化の外にそれなりの狙いがあるわけで、その大目的を外して早期離乳をしても効用はなくなってしまいます。また、注意すべきことは、早期離乳方式は、液状飼料と離乳後の固形飼料との関連が強く、一連の組み合わせになっていることです。従って他の会社の製品や自家配合の飼料を使ったのではなく、

3. 育成時代の高栄養は泌乳能力を低下させる  
従来は、体型がよく健康であれば泌乳能力が高いと信じられ、全乳や脱脂乳の蛋白質を充分補給したものでした。そして毛づやのよい、胸伸びのよい、深みのある、よく肥えた横を仕立てたものです。最近の試験では、育成時代の高栄養は必ずしも泌乳能力に影響を与えないという

中心に実施してきました。体型がよければ泌乳能力も高いと信じられてきました。昨今では、乳用牛群改良推進事業・

# 子豚需給調整対策事業によつて 養豚経営の安定をはかりましよう！

## 事業の目的

最近における豚肉需給の動向や子豚生産構造の変化等から豚肉、子豚の需給状況に応じ、子取り用雌豚の「と殺奨励」又は「導入奨励」を実施し、これによって豚肉の安定的供給と養豚経営の安定的発展をはかるものです。

## 事業の内容

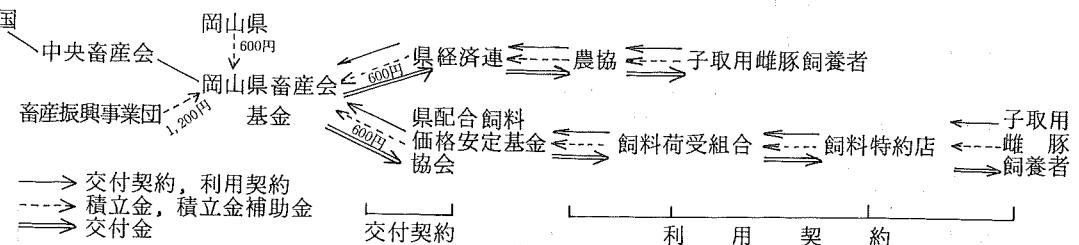
- |                            |                                                                                                                   |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1. 加入資格</b>             | 原則として子取り用雌豚を10頭以上飼養している飼育者の全ての子取り用雌豚(10頭以下でも加入できます。)                                                              |
| <b>2. 加入契約<br/>又は加入申込み</b> | 業務対象年間(昭和56年度～58年度の3カ年間)における各事業年度の開始前に岡山県経済連または、社団法人岡山県配合飼料価格安定基金協会を通じて契約又は加入申込みをすること。なお、両者の会員外の方は直接契約を結ぶことになります。 |

3. 子豚需給調整 積立金	1頭当たり 負担の内容	2,400円	畜産振興事業団負担 岡山県 生産者	1,200円 600円 600円
------------------	----------------	--------	-------------------------	------------------------

4. 子豚需給調整交付金の交付と殺戮奨励交付金導入奨励交付金 20,000円(1頭当たり)  
2,700円( " )

実施に当っては、養豚経営安定推進会議と密接な連絡のもとに、農林水産省畜産局長の承認を得、一定期間一定頭数を定め、と殺又は導入奨励を実施することになります。

## 5. 事業の体係図



!!養豚家の皆さん、子取り用雌豚の全頭加入で、計画生産に協力し、養豚の安定的経営を進めましょう。なお詳細は市町村・農協等へお問い合わせ下さい。

昭和56年10月

社団法人 岡山県畜産会

表 1. 発酵飼料の材料

飼	料	名
基	礎	合
普	通	麩
醬	油	粕
ナ	ス	ン
大	コ	一
チ	豆	粕
糖	ン	皮
モ	ガ	蜜
オ	ガ	ラ
ミ	ラ	屑
食	ネ	ル
		塩
発	水	菌
	酵	

肥育前期用、後期用  
で配合割合が違う

最近未利用資源を利用した発酵飼料が話題になっているが、奈義町の伍協牧場は五三年頃から発酵飼料の給与をしており、最近仕上げ迄発酵飼料を与えた牛を岡山鶴肉市場へ出荷し、好成積を収めているので紹介する。

伍協牧場は四九年に農事組合法人として発足した。四戸の構成で乳用去勢牛常時四〇〇頭、外国種約一〇〇頭を飼育している。乳用種の一部と外国種は最後迄肥育して出荷し、乳用種の大部分は体重四三〇kg位迄中間肥育して組合員に生産原価で分配し、仕上げは組合員各自が行ない出荷する仕組となっている。

岡山県畜産会

表2 肥育成績（8頭の平均）

伍協牧場		組合員分配時		仕上期	出荷	D・G	
導入時体重	飼育日数	体重	価格	日数	体重	通算	仕上期
kg	日	kg	円	日	kg	kg	kg
2276	1906	4366	283790	221	6956	115	116

表 3 販賣成績（8頭の平均）

枝肉重量	枝肉歩留	枝肉単価	枝肉規格	枝肉販売価格	仕上期1日当り増価額
kg 395.6	% 56.9	円 1,318.7	中5頭 並3	円 521,727	円 1,069.7

畜産会のページ

を持ったサラッとした飼料となる

五年度に配合飼料プランを認めて、仕上期の牛にも給与ができる体制を整え、組合員の仕上期の牛にも一kg三五円で配達している。

経費は労働費を含み乳用去勢牛で八六〇円（内飼料費七〇七円）となり、発酵飼料では仕上期の一日当たり平均飼料費は六一〇円位で一日当たり経費は七六三円となる。一般と比べると一〇〇円位安くなり、経済的にも有利と言える。

## 普及所便り

# 稗田飼料銀行運営組合

## 東備農業改良普及所

### (一) 地域農業の概況

水田利用再編対策にともなう転作作物として飼料作物の作付定着化に期待が寄せられているが、水田への効率的な飼料作物作付けの拡大と定着化をはかるためには、畜産農家のみによる対応では労働力・土地確保の面から限界があり、今後は耕種農家と連携した地域ぐるみでの取り組みが必要である。

ここに紹介する赤磐郡熊山町稗田の稗田飼料銀行運営組合はまさにその地域ぐるみの成果であるといつても過言ではない。

### 二、地域の概況

#### (一) 一般概況

(1) 熊山町の北西に位置し、県道熊山-御津線に接する南部山麓の地帶である。  
(2) 土壌は、花崗岩-流紋岩を母岩とし水源は、つの溜池にたよっている。  
(3) 兼業化が進む一方山陽町との境に住宅団地ダイワネオポリスが造成され、社会環境が著しく変化しつつある。

### (二) 集団の構造

#### (1) 飼料生産組合が結成され、各種事業を導入してその推進を図っている。特に、最近は新しい村づくりをめざし、地域農政の推進と水田利用再編対策等とのかわりのなかで飼料銀行に取り組んでいる。

(1) 熊山町では、農業振興協議会を中心で町の振興方向を決定すると共に水田利用再編対策の基本方針を決定している。

(2) 稗田地区では、土地改良区が中心となって、土地利用の方針をたて、酪農家と耕種農家との調整役を果たしている。

(3) 普及所では、土地改良区への働きかけと共に、後継者クラブや農業士及び青年農業士と提携して展示場を設置し栽培技術の確立をはかっている。

(1) 集団のひろがりは、基盤整備地域(地区全域)で土地改良区と同感である。

(2) 構成員は、昭和五五年度は二八名(昭和五三年度三四名)で、そのうち耕種農家二六名、酪農家二名(四六頭)であり、耕種農家の大部分は兼業農家で飯米程度の栽培規模である。

(1) 結成の年次 昭和四九年九月  
(2) 結成の動機と経緯  
① 三戸の地域酪農家は熊山町飼料生産組合へ参加し、飼料作物生産振興対策事業及び自給飼料生産向上特別対策事業によって飼料生産共同機械及び施

・水田再編強化に伴い、その対応と条件整備のため  
・基盤整備を伴う転作

表 1 体

区分	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	26	36	42	56	74
対照区	288	408	564	795	971	1,130	1,288	1,388	1,476	1,656	1,663	1,758	1,865	1,878	2,044
試験区	275	357	399	568	602	713	790	989	1,161	1,333	1,487	1,592	1,594	1,631	1,755
同上指數%	95.4	87.5	70.7	71.4	62.0	63.1	61.3	71.3	78.7	80.2	89.4	90.6	84.8	86.8	85.5
標準値	320	480	630	750	890	1,020	1,160	1,270	1,410	1,500	1,660	1,900	1,952	1,952	1,955
下限	255	410	590	700	820	930	1,040	1,135	1,270	1,360	1,520	1,750	1,816	1,816	1,811

標準値は鶏種の標準体重の上限、下限の数値

表 2 廉 价 卵 状 況

週 齡		22 ~ 26	26 ~ 30	30 ~ 34	34 ~ 38	38 ~ 42	42 ~ 46	46 ~ 50	50 ~ 54	54 ~ 58	58 ~ 62	62 ~ 66	66 ~ 70	70 ~ 74	平均
区 分		26	30	34	38	42	46	50	54	58	62	66	70	74	
産卵率(%)	対照区	55	86	88	89	89	88	85	83	78	66	72	74	64	77.6
	試験区	18	81	92	89	87	85	83	81	78	77	71	68	60	74.7
1羽1日 産卵量(g)	対照区	30	50	53	54	55	55	53	52	45	42	48	49	43	48.5
	試験区	10	47	56	55	53	52	52	51	50	49	46	45	40	46.5
1個平均 卵重(g)	対照区	54	58	60	61	62	63	63	63	64	64	66	67	68	62.4
	試験区	53	58	61	61	62	62	62	63	64	64	65	66	67	62.3

表 3 飼 料 摄 取 量

区分		週齢	4~8	8~12	12~16	16~18	18~20
一羽 平均 日 (g)		対照区	36.5	60.6	72.3	76.7	89.0
累 計 kg/1羽	飼料 量	試験区	25.0 (68.0)	35.0 (58.0)	46.1 (64.0)	50.8 (66.0)	90.6 (101.8)

( )内は対照区対比の百分率

#### 表 4 飼 料 摄 取 状

区分	週齢														平均
	22 ~ 26	26 ~ 30	30 ~ 34	34 ~ 38	38 ~ 42	42 ~ 46	46 ~ 50	50 ~ 54	54 ~ 58	58 ~ 62	62 ~ 66	66 ~ 70	70 ~ 74		
1羽1日 飼料摂取量 (g)	98	109	115	115	115	113	110	109	106	103	106	105	106	108	
	試験区	94	109	115	106	103	101	99	103	108	100	95	95	95	101
飼 料	対照区	3.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1	2.4	2.5	2.2	2.2	2.4	2.2
	試験区	9.7	2.3	2.1	2.0	1.9	1.9	1.9	2.0	2.2	2.0	2.1	2.1	2.4	2.1

-15

試驗研究

## 採卵鶏に対する制限給餌

# 彰 橋 高 鴨 試 驗 場 養 鷄

養鶏經營において、生産原価の大部分は、飼料費によって占められている。したがって、いかにして飼料の節約をはかるかが養鶏經營上の大きな課題となつており、飼料節減のための手段として多くの方法が試みられている。

鶏は、必要とする養分量を飼料の摂取量の増減によって補う能力があるといわれていることから、一般には不断給餌が行われている。しかし、一方で鶏に飼料を自由に飽食させる必要があるだろうか。飽食させることによりかえって過食になり、不経済で過肥などの悪影響を招くのではないかという疑問が生じてくる。このことから、多くの研究者が、制限給餌による飼料効率の改善を中心とした経済性の改善についての研究に取り組んでいる。

しかし、これまでの研究では、育成期の制限給餌に重点がおかれ、養鶏家も育成時期にのみ、制限給餌を行つており、産卵のピーク経過後の産卵量の減少に見合つた合理的な飼料給与法についてはあまり研究が進められていない。

したがつて、養鶏家も成鶏期は終始、不断給餌を行つてゐるのが現状である。

このようなことから当養鶏試験場では、一九七七年から一九七九年にかけて育成期は六〇%制限給餌を行い、成鶏期において日齢あるいは季節とは関係なく産卵全期間を通じて一羽一日一〇〇g定量給餌を行い、生産性、経済性について検討

## 一、試験の方法

一、試験の方法  
試験に用いた鶏は、一九七九年七月一日の生産性と経済性について追跡調査するのでその結果の概要を報告する。

した。その結果、飼料節減による経済効果はあつたが、生産性に若干問題があつた。  
（本誌一九七九年八月号）

2. 初產狀況

2. 初産状況  
産卵率五〇%到達日齢は対照区一六八日齢、試験区一八二日齢であつて、試験区が一四日遅れ、卵重については対照区五一・六%、試験区五五・一%と試験区が一・六%重かつた。また、この時の体重は対照区一、七〇三g、試験区一、四八七gであった。

### 3. 産卵状況

一二一) 七四週齢までの産卵状況を表<sup>2</sup>に示した。

平均産卵率は対照区が七七・六%、試験区は七四・七%で試験区がやや劣つた。産卵ピークは対照区が三四~四二週齢で八九%とやや低くかつた。試験区は初産が遅れたにもかかわらず、ピークは対照区より早く三〇~三四週齢で九一%の産卵率を示した。しかし、その後の産卵

卷之三

3. 産卵状況  
一三一～七四週齢までの産卵状況を表2に示した。  
平均産卵率は対照区が七七・六%、試験区は七四・七%で試験区がやや劣った。  
産卵ピークは対照区が三四～四二週齢で八九%とやや低くかった。試験区は初産が遅れたにもかかわらず、ピークは对照区より早く三〇～三四週齢で九二%の産卵率を示した。しかし、その後の産卵

## 二 試験の結果

二、試験の結果

試験期間は四〇七四週齢までの七〇週間であつた。

量の飼料を毎日チーン式自動給餌機により給与した。給与飼料の組成は、〇四週齢 C P 二一・五%, T D N 七三%, 四週齢・産卵率三〇%に達する日齢までは C P 一五%, T D N 六三%, それ以後は終了まで、C P 一六%、T D N 六六%

育成期における同

育成期における飼料摂取量を表3に、  
三一・七四週齢までの一羽一日当たりの  
飼料摂取量、飼料要求率について表4に  
示した。

#### 4. 飼料摂取状況

一羽一日産卵量も同様の傾向で推移  
平均産卵量で対照区四八・五九、試験  
四六・五九であった。

つた。

表 4 飼 料 摄 取

区分	週齢														平均
	22 ~ 26	26 ~ 30	30 ~ 34	34 ~ 38	38 ~ 42	42 ~ 46	46 ~ 50	50 ~ 54	54 ~ 58	58 ~ 62	62 ~ 66	66 ~ 70	70 ~ 74		
1羽1日 飼料摂取量 (g)	98	109	115	115	115	113	110	109	106	103	106	105	106	108	
	試験区	94	109	115	106	103	101	99	103	108	100	95	95	95	101
飼 料	対照区	3.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1	2.4	2.5	2.2	2.2	2.4	2.2
	試験区	9.7	2.3	2.1	2.0	1.9	1.9	1.9	2.0	2.2	2.0	2.1	2.1	2.4	2.1

-15

-14-

四〇一八週齢の一羽当たり累計飼料摂取量は試験区が対照区対比で六三・二%となり、ほぼ期待した飼料節減効果が認められた。

一方、成鶏期の飼料摂取量は試験区は対照対比で九四%となり、一羽一日飼料摂取量は対照区二〇八・四g、試験区一〇一・九gでその差は六・五gであった。

この結果飼料要求率は対照区一・二四試験区一・一九で試験区が〇・〇五すぐれられた。

○一・九gでその差は六・五gであった。

この結果飼料要求率は対照区一・二四試験区一・一九で試験区が〇・〇五すぐれられた。

○一・九gでその差は六・五gであった。

## 5. 経済性

経済性の検討では表5のとおりであり鶏卵収入から試験期間中(四〇七四週齢)の飼料費を差引いた一羽当たりの粗収益で比較し、その結果、試験区が対照区より一七九円の增收となつた。

また、鶏卵一kgの生産に要した飼料費は試験区が対照区より六円、低い値となり、対照区対比で九六・三%となつた。

## 三、問題点

この試験で体重は制限給餌により、育成期は期待どおり小格になり、飼料の節減につながった。しかし、成鶏舎に収容した一六週齢時、試験区の体重は対照区体重の一〇週時と同様の発育水準にしか達していないなかつたこと、体重が対照区対比で九〇・六%まで回復した三六週時から成鶏期の制限給餌に入ったため、成鶏期に予想していた以上の体重の減少が

表5 経済性 (4~74週齢 1羽当たり)

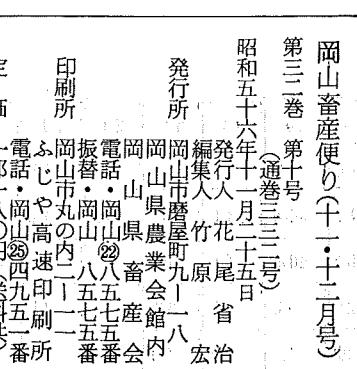
区分	鶏卵収入		飼料費			粗収益 (鶏卵収入 - 飼料費)	鶏卵1kg 当飼料費 (22~74週齢)		
	数量	金額	数量		金額				
			中すう用	大すう用					
対照区	kg	円	kg	kg	円	円	円		
	17.69	4,936 (100)	2.72	6.88	38.19	3,622 (100)	1,314 (100)		
試験区	kg	円	kg	kg	円	円	円		
	16.95	4,729 (95.8)	1.68	5.79	35.26	3,236 (89.3)	1,493 (114)		

みられた。その結果、産卵ピークの持続時間が短かく、しかも、産卵下降の速度が早く産卵成績の低下をまねいたものと考えられる。このことから制限給餌を行つ場合、体重の回復期と産卵の上昇期は不断給餌とし、産卵後期に定量給餌を行つ飼養および体重の管理が重要であることが判つた。

おわりに採卵養鶏における育成期と産卵後期の制限給餌法は、經營改善をはかり所得増大を得る一つの方法として、また資源の有効利用の面からも養鶏家において実践してみるに価するものと考えられる。

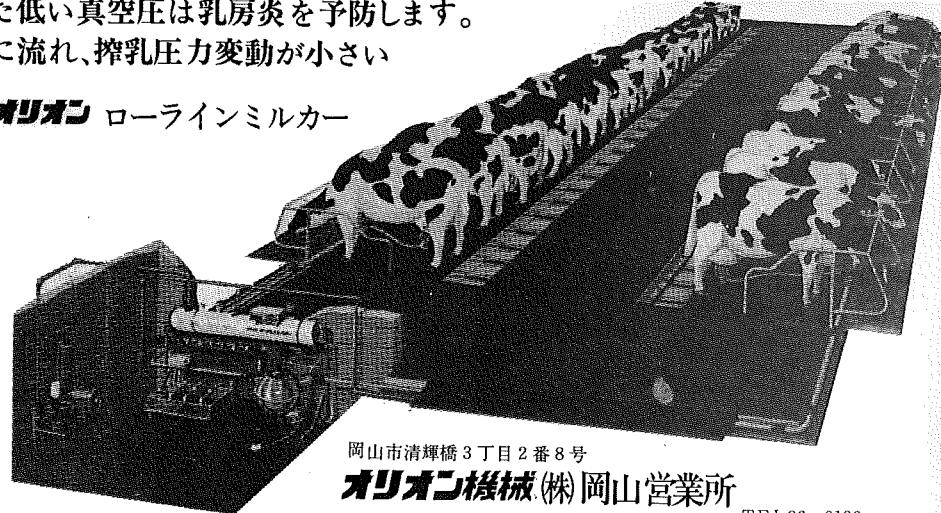
▽さて、畜産便りも今月が本年の最終号。そろそろ一年を振り返る時期となりました。畜産農家の皆さんもワラ集めが一段落したら一年を振り返って見るのもよいでしょう。

▽今月号は「県共進会を振り返って」ということで、各畜種について三氏から忌憚のないご意見をいただきました。雨を憚つて参観された皆さんのご意見はいかがでしょうか。



安定した低い真空圧は乳房炎を予防します。  
自然に流れ、搾乳圧力変動が小さい

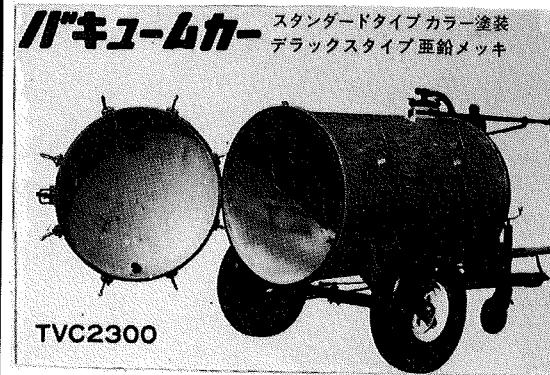
オリオン ローラインミルカー



岡山市清輝橋3丁目2番8号

オリオン機械(株)岡山営業所

TEL 26-0136



より豊かな明日の農業のために

STARスター農機株式会社

岡山営業所  
岡山市米倉121の4(保崎ビル内)  
電話(0862) 43-1147~8



大型メインビータとスパイク型ならしビータの2段方式で堆肥を細かく破碎して均一散布床コンベヤは散布ムラがなく音の静かな連続送り方式

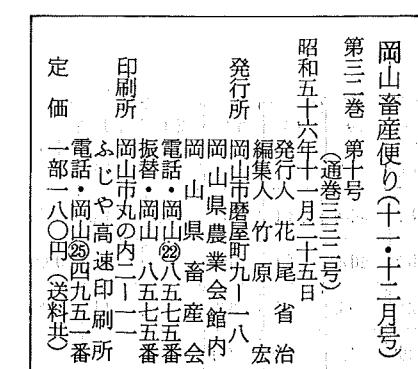
酪農畜産機器 総合商社



株式会社

小 六

本社 岡山市福成2-14-23 (0862) 63-1221(代)  
落合営業所 真庭郡落合町上市瀬165-2 (08675) 2-3364  
金川営業所 御津郡御津町金川337 (08672) 4-0143  
津山営業所 津山市志戸部712 (08682) 2-1561



第三卷 第十号

昭和五十六年十一月二十五日

(通巻三三号)

岡山畜産便り

岡山県農業会館

岡山市原尾花竹町

岡山市磨屋町

岡山市山陽町

あとがき

▽十一月に入つて寒い日が続いております。刈り取りの終つた田に白く霜が降りているような朝が、このところ続いています。本格的な冬もすぐそこといったところです。

▽さて、畜産便りも今月が本年の最終号。そろそろ一年を振り返る時期となりました。畜産農家の皆さんもワラ集めが一段落したら一年を振り返って見るのもよいでしょう。

▽今月号は「県共進会を振り返って」ということで、各畜種について三氏から忌憚のないご意見をいただきました。雨を憚つて参観された皆さんのご意見はいかがでしょうか。